



写真提供=ワーナーブラザース

脚本=ドン・ルース 出演=ウービー・ゴールドバーグ/メアリー＝ルイーズ・パーカーほか ワーナーブラザース配給 9月初旬公開

ロウソクの明かりは女神が照らす月の明かり。人それぞれの幸せと願いを映しだす。

祝いたものだという。ロウソクの明かりは女神が地上に灯す、月の明かりだ。だから、ケーキのロウソクは神秘的に映るのだろう。

ロウソクは一息で消さなければならぬ、願ひ事は秘密にしておかなければならない。そうでないと願ひはかなわない。ジェーンは、新天地での新しい自分の誕生を願ったに違いない。

その日、ジェーンはロビンから、真っ赤なリボンのついたピアノを贈られる。ジェーンは、うれしさのあまりカーペンターズの曲を弾いた。それはロビンの好きな歌。ホリーには、もうすぐ子供が生まれる。そこから、3人の新たな友情の旅が始まろうとしている。

© CICビクタービデオ提供



© CICビクタービデオ提供

コレオーネ（マロン・ブランド）の長女コニー（タニア・シャイア）の結婚披露宴には大きな4段重ねのケーキが登場する。



誕生日にトトは家族からお祝いをしてもらう。パパがピアノを弾き「ファンファン」と歌うと庭のテニールツプも踊りだす。



『すてきな片想い』（1984年アメリカ映画）CICビクタービデオ。3800円。

友だちの存在は、自分が弱ったとき初めて理解できる。二部治身 挿画家

生き方が人それぞれに違うように、愛のあり方も百人百様なのだろう。

もしあなたが恋愛をしていて、それが破れたとき、そして誰かに話さずにおれないとき親に話さずどうか、それとも姉妹に。そうではない、なんでもかんでも話してしまえるのは友だちなのだ。同性にしか分からない心の裏と生理的な部分を、言葉を超えて理解できるのは、分かり合った同性の友。

友だちの存在の大きさは、自分が弱ったときに初めて理解できる。長い闘病生活をするとき、貧しくなったとき、社会的なダメージを受けたとき。良いときはあんなに親しかった友が、だんだん遠ざかっていく。本当は、そんなときこそいてほしい人たちのなかの。

世の中には、友だちの多さを誇る人がいるけれど、一緒にさわりたり遊んだりするだけの交友が、ふとむなしくなることはないのだから。

ろうか。不幸も孤独も知らなければ、人はやわらかくいられる。そしてつるんとした心のままに老いていくのかもしれない。

この映画で見せられた女の友情は、あまりに大きい。極限の状況で、人がこんな友情を持ち続けることができるかどうか、自分のことをふり返ってもわからない。いつのまにか悲しくはないのに涙を流していた。



『トト・ザ・ヒーロー』（1991年ベルギー・仏独映画）東宝。6000円。



チャーリー（ティモシー・ハットン）とケイト（メグ・ライアン）は婚約中だったのに彼は新たな恋人が……。



写真提供 UIP映画

フレンチ・キス

ローレンス・カスタン監督作品

あなたはキスに奇跡の力があることを信じますか。

文／金丸弘美

キスは魔法だ。永遠の眠りについた『白雪姫』や『眠れる森の美女』の姫を目覚めさせたのは王子様のキス。もっとも有名なキスの一つに、『風と共に去りぬ』を、挙げる事ができる

かもしれない。南北戦争に志願したレット・パトラーは思い焦がれるスカートを、キスを」と、叫んだ。

キスが奇跡を起こしたのは『キスへのプレリュード』。結婚式の日、突然現れた老人とキスをした新婦リタ（メグ・ライアン）は魂が入れ替わってしまった。新郎ビーターは彼女の魂を元に戻そうと奔走する。再び魂が戻ったのもキスの力だ。新郎と新婦は語る。

「奇跡はあなたよ」「それは君だ」

束の間の逢瀬に、日常にない幻を見たのは『男と女』の、妻を亡くした男と夫を亡くした女との恋。キスは少し苦いものだったのかもしれない。

キスは恋人たちの永遠のテーマ。キスは心を踊らせ、恋の奇跡を起こす。カナダ住まいのケイト（メグ・ライアン）の婚約者チャーリー（ティモシー・ハットン）は仕事でフランスへ行くことになる。ところがケイトは、フランスに行った彼から突然の電話を受け取る。それは「ごめん、僕はパリで恋に落ちた」というものだった。ケイトはフランスに行き、ホテルで

彼とフランスの恋人の熱的なキスを目撃し、失神してしまった。

しかもその隙にバッグが盗まれてしまった。彼女と飛行機で同席だった男リュック（ケビン・クライン）が彼女の前に現れた。実は彼女の鞆に葡萄の苗と首飾りを忍ばせて、密輸をしたのだ。リュックは、彼女とともに鞆を盗んだ男を探すが、首飾りは見つからない。彼女は婚約者を追って旅に、リュックは首飾りの行方を知るために彼女を追って旅に。やがて2人に友情が芽生え、キスを交わすまでになる。

旅の中でケイトはリュックが大きな葡萄園の跡取りだったと知る。その彼にロマンスを抱くようになった。リュックも彼女に惹かれ始める。「本当の恋の物語を考えたか」「結末は?」「わからない。自分で見つけろ」

『風と共に去りぬ』（1939年アメリカ映画）ワーナー・ホーム・ビデオ。5400円。



恋を美しく彩るもの、それはキス。愛を燃えたたせるもの、それはキス。キスはいいつも恋人たちの心に宿る。



求婚のときパトラーはスカレットに「こんなキスをした男がいたか」と迫る。



湖の見える結婚式のキスから物語は始まり、キスによって2人に奇跡が起こるところで物語は終わる。



『キスへのプレリュード』

『男と女』（1966年フランス映画）ワーナー・ホーム・ビデオ。3800円。



レーサーのジャン・ルイ・トランティニャンはアヌーク・エーメと知り合う。

『キスへのプレリュード』（1992年アメリカ映画）FOXビデオ。3800円。

脚本：アダム・ブルックス 出演：メグ・ライアン／ケビン・クライン／ティモシー・ハットン UIP配給 11月公開

ボーイズ・オン・ザ・サイド

3人は旅に出た。自分と友愛と未来を探しに。

文／金丸弘美

映画

ジェーン（ウービー・ゴールドバーグ）は、誕生日にケーキを贈られる。旅の仲間が、贈り物を契機に欠かせない友愛の仲に変わる。

バースデーケーキのロウソクを消し、願いをかければ思いはかなう。

お祝いにはケーキはつきもの。これまでもさまざまなケーキが登場した。なかでも多いのは結婚式だろう。『ゴッドファーザー』では、庭園で行われた長女の結婚式には4段重ねのケーキが運ばれた。『マグノリアの花たち』では、シャーリー・マクレーンが、アルマジロの形をしたケーキを作った。『カラミティ・ジェーン』では、劇場で結婚したドリス・デイには、劇場をかたどったケーキが出てきた。

『ステラ』では、一人娘のために、ベック・ミドラーはドレスとお揃いのピンクのケーキを飾る。『すてきな片想い』では、16歳の誕生日に、ようやく、好きな彼と一緒にケーキを囲んで2人だけの誕生日を迎える。

を扱うロビン（メアリー・ルイズ・パーカー）だ。彼女もサンディエゴで、新しい人生を見つけないかと思っていたのだ。ロック好きのジェーンと、フォーク好きのロビンは、今ひとつ相性がよくないが、ジェーンのトヨタに同乗して一緒に旅することにした。

途中ジェーンの友人ホリー（ドリュー・バリモア）のところに立ち寄り、ホリーには同棲する男がいたが、麻薬中毒で、どうしようもない。ジェーンとロビンは、ホリーの彼を椅子に縛りつけ、3人の旅が始まる。3人は、それぞれに人生のお荷物を抱えていた。ジェーンは17年間も歌って芽が出ない。しかもレズビアンなのだ。ロビンは、たまたま男性と関係を持ったためにエイズに感染した。ホリーは麻薬中毒の彼の赤やんを身ごもっているのがわかる。しかも彼が家で事故死し、ホリーに疑いがかかる。

「私は行き場がないの。どこへも行けない。行き止まりなの」とロビン。「聞いて、行き場がないということは、今いる場所にいることよ。オーケー？」とジェーンは、ときどき発作を起こすロビンを慰める。そんな彼女たちの旅だが、女だからこそ、女同士だからこ

ケーキは、なんだか心を楽しくさせる。結婚記念日に家族が両親と、小さい、だが温かい心のこもったケーキを囲んだのは、ウディ・アレンの『ラジオ・デイス』だった。

「お願いはしないの」「もうかなったわ」「ボーイズ・オン・ザ・サイド」でも、誕生パーティーに素敵で美しいケーキが登場する。

「お願いはしないの」「もうかなったわ」「ボーイズ・オン・ザ・サイド」でも、誕生パーティーに素敵で美しいケーキが登場する。

「お願いはしないの」「もうかなったわ」「ボーイズ・オン・ザ・サイド」でも、誕生パーティーに素敵で美しいケーキが登場する。



写真提供＝ワーナーブラザーズ

誕生日のケーキのロウソク。それは女神の月の明かり。

それぞれの新天地をめざして3人は旅に出た。左からジェーン、ホリー（ドリュー・バリモア）、ロビン（メアリー＝ルイズ・パーカー）。

お互いの真実を知り友愛の契機となるのが、ジェーンの誕生パーティーだ。アリゾナのクラブで、誕生パーティーが行われる。クラブの仲間たちが、ジェーンに贈るのは誕生日のケーキ。その昔、誕生日ケーキは、女神の誕生をお

スモーク

くゆらすタバコの煙の中には 人それぞれの人生が漂う。

文／金丸弘美

タバコ屋のオーギーの趣味は写真撮影だ。



脚本=ポール・オースター 出演
=ハーヴェイ・カイテルほか 日本
ヘラルド映画配給 10月上旬公開



作家のポールは、タバコ好きの男が書物を
破いて紙巻きタバコにする挿話を始める。

ボガードの扮する探偵のサム・スピードの愛用のタバコ
は自分で巻く紙巻き。タバコを巻くところも登場する。



「マルタの鷹」(1941年アメリカ映画)ワーナー・ホーム・ビデオ。3800円。

「荒野の用心棒」(1964年伊・西独・スペイン映画)日本コロムビア。3500円。



イーストウッド愛用のタバコは細く巻いた葉巻。いつも
口にくわえたまま。タバコとボンチョが印象的だ。

かつていい男たちはみんなタバコを優雅に吸った。

「あなたはキレイな人なのよ。だから心配なの」と美人秘書から、紙巻きタバコに火をつけてもらったのは「マルタの鷹」のハンフリー・ボガードだった。彼は「三つ数えろ」でも、「カサブランカ」でもタバコがよく似合った。細い葉巻をくわえてニヒルに笑ったのは「荒野の用心棒」のクリント・イーストウッドだ。「アウトロー」では噛みタバコだった。なんでも効くと称して水薬を売り歩く商人が、あまりにしつこくつきまとうので、噛みタバコを彼の白いジャケットにプツとかけ「染み抜きにも効くのか?」と言った。タバコは今でこそ嫌われものになっ

たが、かつていい男たちは、みんなタバコを優雅に吸った。「スモーク」の登場人物は、ほとんどが中年だ。でも、まだロマンを捨てきれない。それをタバコの煙に託しているかのようだ。1990年、ニューヨークのブルックリンの7番街と8番街との間にあるタバコ屋を営み、毎日キャノンで店前の様子を撮り続け、両切りタバコを吸うオーギー(ハーヴェイ・カイテル)



ポールは、ある日オーギーの家で彼の写真を見ることに。そこには偶然亡き妻の姿があった。

のもとには、さまざまな人々が訪れる。集まったお客のなかで、タバコ談義が繰り広げられる。「タバコにクーポンがついているのがあったな」派手な背広を着て、葉巻をくゆらす男は、禁煙の広がりを嘆く。「そのうちに、俺たちは並べられて殺されるに違いない」妻を7年前に亡くし、以来ベンが進まないタバコ好きの作家ポール(ウィリアム・ハート)も常連の1人だ。「タバコの煙の重さの量り方を知っているかい」彼の会話とタバコを契機に、ここにかかわる多くの人生が交錯していく。ばんやりして歩き、危うく車に轢かれそうになったポールを救った黒人の少年ラシード(ハロルド・ペリノー)。その彼と失踪した父で自動車修理工場を営む葉巻を吸う男(フオレスト・ウイテカー)。18年ぶりにオーギーのもとに現れた昔の恋人で、落ち着かないそぶりタバコを吸うルビー(ストッカー・チャニング)。それぞれのタバコの煙には、人生が漂っているかのようだ。「煙が目にしみる」の歌がよく似合う。

マディソン郡の橋

2人を包むのはジャズの響き。2人の恋はいつまでも覚めることがない。永遠に……。

文／金丸弘美

大人の恋に、バーやクラブはよく似合う。それも音楽があれば、最高だ。流れる音楽に身をまかせれば、日常にはなかったときめきが訪れる。いつも大人たちは、音楽のあるバーに、恋人とともに入り、愛をささやいた。

運命的に2人は出会う。「これは生涯一度の確かな愛だ」と2人は確信するのだった。



カメラのシャッターのような一瞬の時間が知らなかつた恋の扉を開くことさえある。

大人の恋に、バーやクラブはよく似合う。それも音楽があれば、最高だ。流れる音楽に身をまかせれば、日常にはなかったときめきが訪れる。いつも大人たちは、音楽のあるバーに、恋人とともに入り、愛をささやいた。

流れるのはモダンジャズ、恋はライブのなかで燃えた。

『マディソン郡の橋』では、全編にジャズが流れ、愛の語らいの場としてのバーが登場する。

村にやってきた見知らぬ1人のカメラマンと、たった4日間の、しかし熱烈な恋をしたことを知るのである。

彼は、世界的にも有名な写真雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」の撮影のためにマディソン郡を訪れたのである。

「いい夜だ。今までに行ったところ、いちばんいいところだ。」

「永遠のMr.イーストウッドだから……」
平野恵理子 イラストレーター



2人の出会いの契機となったマディソン郡の橋。

初めて彼を見たのは「ダーティハリー」。まだ私は小学生だった。映画をきちんと把握しなわけではなかったが、なんだかカッコイイやつ、と思った。あの有名な、ホットドッグくわえてドカーンバキューンジャーツ（水の音）のシーンでまいてしまったのだ。

「ダーティハリー」を観た時、既に私は一十代も後半になっていた。光陰矢の如し。私も歳をとったがイーストウッドも若い年にな

カメラマンのロバート・キンケイド（クリント・イーストウッド）は、主婦フランチェスカ（メリル・ストリープ）をジャズの流れるバーに誘う。

脚本=リチャード・ラグラヴェニーズ 出演=クリント・イーストウッド/メリル・ストリープ ワーナー・ブラザーズ配給 9月中旬丸の内ルーブルほか全国公開



「ナショナル・ジオグラフィック」の撮影で訪れたのが、2人の運命の出会いの始まりだった。



「古き夜と遠き音楽に」

そこに流れるのはジャズ。

世界を旅するカメラマン。何処という自分の居場所のない孤独な彼。そして、片田舎で幸せに暮らしているかに見えた主婦のフランチェスカ。その立場も住まいも違う2人は、同じように引き合う気持ちを見つけたのだ。

マディソン郡の橋の撮影の合間に、キンケイドはフランチェスカの写真を撮った。そこに、お互いの心を見つめ合ったのかもしれない。

夜、2人は踊る。

キンケイドが、今度は彼女を誘う番だ。彼が誘ったのは、街のバー。ジャズメンたちが、演奏を行っている。彼女がふだん行かないようなところだ。

初めて、2人は彼女の家を離れ、2人だけの時間を過ごす。そこには彼女と彼の心を一体にするかのようなメロデーが流れるのだ。

2人が飲むのはビール。ジャズの演奏のなか2人は踊り、ひとときの大人の時間を過ごす。短い、しかし、凝縮された充実のひとときだ。

「なぜ僕は写真を撮るのか。それは君に会うためだった。君は僕を知っている」

まるで運命につながったような衝撃の出会い。マディソン郡でのたった4日の恋は、大人の薫りのする恋だ。

お休みは言わないでください
最後のメロデーの響きが
消えるまで

デートは街のバー。大人の恋には
ジャズのメロデーがよく似合う。

「ラウンド・ミッドナイト」(1986年
仏・米映画) ワーナー・ホーム・
ビデオ3800円。

実在のジャズメン、デクスター・
ゴードンが主演した。舞台はハリ
のクラブのブルー・ノートだ。音
楽に心酔した大人たちのドラマ



写真提供=ワーナー・ホーム・ビデオ

写真提供=ワーナー・ホーム・ビデオ



伝説のサックス奏者バードことチ
ャーリー・パーカーは、クラブの
人気者。この映画の監督もクリ
ント・イーストウッドだった。

「バード」(1988年アメリカ映画)
ワーナー・ホーム・ビデオ3800円。



製作監督も精力的に手がけていく彼は、私
にとって憧れの映画俳優の原体験だ。オスカ
ーに縁のない男といわれていたが、「許されざ
る者」ではソロソロ受賞で満足満足。今度の
「マディソン郡の橋」を製作監督主演までする
ときいた時はショックを受けたが、農村空撮
の美しい出来ばえに敬意を表して多くは言わ
ない。

サークル・オブ・ブレイズ

パーティーは、恋人たちが集うときめきまの場所。

文/金丸弘美



パーティーは、いつも出会いの場。恋人たちが生まれるときめきの場でもある。

高校卒業の日、ダンスパーティーに行ったのは「アメリカン・グラフィティ」。男の子も女の子も、高校最後の1日の思い出をつくらうとしていた。

プロム(卒業パーティー)に着ていくドレスとパートナーの男の子を探すのが悩んだのは「ブリティッシュ・ピクニック」のモリー・リングワオルド。

小さなアパートに、つき合っているみんなを呼んで、狭い中でパーティーをしたのは、「ティファニーで朝食を」のオードリー・ヘプバーンだった。

自分のママがパパと恋をしないと、自分が生まれないと、若き日のパパとママをダンスパーティーで結びつけたのは、ママとパパの学生時代にタイムスリップしてしまったマイケル・J・フォックスの「バック・トゥ・ザ・フューチャー」だ。いつも、パーティーは恋が生まれる。

パーティーは恋の入り口。大人の世界の扉が開く。

少女たちが初めて出かけていったパーティー。それは大人の恋の入り口、青春の甘くほろ苦い思い出。

「サークル・オブ・ブレイズ」は、3人のクラスメイトの女の子が、恋に胸ときめかせ、大人への入り口で戸惑い、そして成長していく姿を描いたものだ。その彼女たちの恋と、大人の世界への巡り合いは、パーティーだった。

物語は1949年、アイルランドの美しい町ノックグレンから始まる。同じ田舎で育ち、同じように洗礼を受けた仲のいいベニー(ミニ・ドライヴァー)とイヴ(ジェラルディン・オラウ)は、18歳になった1957年にダブリンの大学に入るようになった。若さと未来への夢が胸のなかに膨らむ2人にとって、大学は自由な空気に満ちているかのようだ。

大学で2人は美人で大人びたナン(サフロン・パローズ)と知り合いになり、ラグビー部の男の子ジャック(クリス・オドネル)を紹介された。ベニーはジャックに声をかけられ、すっかり夢中になってしまった。

そんなある日、パーティーに出かけることになった。パーティーは彼女たちにとっては、男の子に自分たちを披露する晴れの舞台だ。

ドレスを身に着け、鏡に映しどんなふうに見えるか、もうお祭り騒ぎのようだ。ベニーは胸の広いドレスの上から自分の胸の形を整えたりと、パーティーに心ときめかせる。ドレスを着ると見違えるように美しく輝く。

パーティーが始まった。イヴとナンには男の子が声をかけたのに、ベニーには誰も声をかけてくれない。思い焦がれるジャックも声をかけてくれない。ベニーはうちひしがれ、目には涙さえ浮かぶ。テーブルにあったチョコレ



ドレッシングルームでは男の子たちの噂をささやき合う。

脚本=アンドリュウ・デイヴィー
出演=クリス・オドネル/ミニ・ドライヴァー KUZUIエンタ
ープライズ配給 今秋公開



トを、やけになって食べる始末だ。1人テーブルで悲しみにくれるベニーにようやくジャックは気づき、ダンスに誘った。どうして誘ってくれなかったの」というベニーに「好きなものは最後にとっておくのさ」と、気障な言葉で彼女を慰める。「見かけはサイのようでも、心は白鳥のよさなのよ」とベニーも負けずに答える。

こうして2人は、踊り始めた。ベニー

ベニーは胸が開いたドレスを初めて着て、鏡に自分の姿を何度も映しては大はしゃぎだ。



シャペール大佐は、かつての妻に財産の分与を求める。だが彼女は今の夫と子供を盾に要求を拒絶する。



シャペールの心には、いつも、かつての栄光の時代と美しかった妻との優雅な暮らしが思い出される。

脚本リジャン・コスモノイブ・アンジェロ 出演リファニー・アルダン ヘラルド・エース配給 9月30日ル・シネマ公開

写真提供・ヘラルド・エース



『愛の報酬』の19世紀初頭というのは、帽子もリボンも、発展したときだ。1817年、パリにシルクハットを

女の被ったハット。そこにはお洒落と同時に彼女の守り抜く世界があった。

被った男シャペール(ジェラール・ドパルデュエ)が現れる。帽子はよれてるが、当時もっとも流行したものである。そこに彼のプライドが表れているかのようだ。彼の脳裏には、ナポレオンとともに参戦し、敗退したときの勇敢だった戦闘帽の姿がよぎる。彼は戦争で10年前に死亡したことになっていた。彼に今残されたのは、元の妻で、今はフェロー伯爵夫人(ファニー・アルダン)のもとに渡った自分の財産を取り戻すことだ。

戸惑うフェロー伯爵夫人。それでも彼女は精一杯のお洒落な帽子を使い分けるたしなみを知っている。それは凋落した彼の1つのハットとは対照的だ。帽子はまるで、2人の愛の駆け引きをそのまま象徴しているかのようだ。

『バリー・リンドン』(1975年アメリカ映画)ワーナー・ホーム・ビデオ。1万7700円。



バリー(ライオン・オニール)の時代の衣装と帽子の華麗さは目を奪う。



イースターのハット・パレードから始まる物語。帽子がプレゼントに。

『イースターパレード』(1948年アメリカ映画)ワーナー・ホーム・ビデオ。3800円。



文/金丸弘美

愛の報酬

男のハット。そこには彼のプライドがあった。

イヴ・アンジェロ監督作品

『ディファニーで朝食を』(1961年アメリカ映画)CICピクチャービデオ。3800円。



ホリー(オードリー・ヘプバーン)は金持ちの男性を部屋に呼んでパーティーをした。



1962年のカルフォルニアの体育館でロックのパーティー。



『アメリカン・グラフィティ』(1973年アメリカ映画)CICピクチャービデオ。3800円。

ベニーとイヴは、美しいノックグレンの町で育った幼なじみだ。



1にとっては、思い慕った初めての男性とのダンス。ダンス曲は『慕情』の主題曲『Love is a many splendored thing』。そういえば『慕情』も、パーティーで出会い恋をする物語だった。パーティーの日ベニーは本当の恋に落ちたのだ。少女から大人の扉を開いたのである。

オデイルの夏

遊園地は誰も気づかない別世界への入り口。

文／金丸弘美

オデイルは、遊園地でストリップの呼び込みと、踊り子の激しいリズムに心を動かされる。



遊園地は、楽しさ溢れる場所だが、同時に何が待ち受けているかわからない怪しさを持ち合わせているかのようだ。それは未知の見たこともない世界を創出することを、遊園地が課せられているからなのかもしれない。

『第三の男』の死んだはずの闇の男オソン・ウエルズが友人の前に登場するのは遊園地の観覧車。身を隠すには人の多い遊園地は最適だったのだろう。

遊園地の呼び込みだったビリーが、死後1日だけ地上に戻ることを許され、成長した娘に出会い、信じることの尊さを知るの『回転木馬』。そこには死後と現世と通じる世界があった。

走るジェットコースター。身を委ねるオデイル(エマニュエル・セニエ)。オデイルの夏は、遊園地から始まる。

その夏、未知との出会いが待っていた。

彼女は自分でも気づかなかった性と大人の世界への好奇心に目覚め始める。それはまるで遊園地という迷宮に入り込んでしまったかのような。

オデイルは、遊園地で、やがてストリップの呼び込みの男ジャンジャン(リシャール・ポランジェ)と知り合い、まったく知らなかった男と女の世界を覗くことになる。一方、オデイルを偶然列車内で見かけ、以来若さの虜になり、彼女を抱くことを夢見る年老いた精神病院の院長ビエール(ジャン・ピエール・マリエル)は、テニスコートでオデイルと再会。彼女の言うがままに遊園地に行く。やがて、2人は遊園地の向こうの官能の世界へ旅に出ることになるのだ。



初々しいオデイルは年老いたビエールに「君を見たい」と言われる。

『回転木馬』(1956年アメリカ映画) フォクスビデオ。3800円。

脚本=クロード・ミレー
出演=ジャン=ピエール・マリエル/エマニュエル・セニエ
ヘラルドエース、日本ヘラルド
配給 9月中旬公開



回転木馬の呼び込みビリーはあの世から15年目、1日だけ地上に戻ることを許され、自分の娘に出会う。



『第三の男』(1949年イギリス映画) IVC。2863円。

戦後のウィーン、主人公の作家が探した死んだはずの友人ハリーは生きており、闇の帝王になっていた。

少年は恋焦がれた女性に贈り物を贈った。
おっぱいとお月さま

ピガス・ルナ監督作品

映画

テテは子供の中の子供。
年をとってテテに
近づいていくような私。
渡辺政子 バンの会主宰



人はプレゼントに思いを託す。どんな些細なものであっても、思いのこもったものであれば、それは光り輝く。憧れの年上の従姉妹ジョディ・フォスターから銀のボールのペンダントをもらったのは「君がいた夏」の野球少年のマーク・ハーモン。少年は彼女の思い出を胸にプロの選手となった。いつもいじめられていた「ベスト・キッド」の少年ラルフ・マツチオは、近所の日系人パット・モリタにカラテを教えてもらう。少年がカラテの基礎を覚え、誕生日のお祝いにももらったのは黄色いオープンカー。「パンザイノ」と叫んで、彼女とデートに出かけた。メル・ギブソンの新作「プレイブハ



ピリー少年の美しい思い出のなかに、従姉妹のケイトから贈られた銀のボール型のネックレスが登場する。

「君がいた夏」(1988年アメリカ映画) ワーナー・ホーム・ビデオ。3800円



「ベスト・キッド」(1984年アメリカ映画) ソニー・ピクチャーズエンタテインメント。3800円



ダニエルは誕生日の日に、ミヤギにカラテ着とケーキ、そしてなんと車を贈られた。



少年は月に願いをかけた。ボクのオッパイが欲しいと。

テテ少年(ビエル・ドゥラーン)は、弟が生まれて面白くない。ママのオッパイを弟に奪われてしまったからだ。テテ少年はお月さまに願いをかけた。「ボクだけのオッパイが欲しい。オッパイを送ってくれよ」。その日、月は1つの星を贈ってくれた。それはパリーカ



テテ少年はピンクと白のカーネーションをエストレリータのプレゼントに持っていく。
テテ少年はお月さまに願った理想のオッパイと巡り合う。テテは赤ん坊のように夢中でオッパイを吸った。

脚本=クカ・カナルス/ビガス・ルナ 出演=ビエル・ドゥラーン アルシネテラン、シネマテン 配給 9月下旬Bunkamuraル・シネマ公開

彼女から贈られたのは素敵で豊かなオッパイ。

らやってきた旅芸人のエストレリータ(マチルダ・メイ)だ。理想のオッパイをしている。彼女はハーレーに乗った夫とトレーラーで暮らしている。テテは大事なカエルのワリーを、カエル用の水差しとともに彼女に贈った。テテにとっては大事な宝物なのだ。そうしてエストレリータの豊富なオッパイから溢れるほどのミルクをかけてもらった。最高の贈り物だ。でも、恋敵もいる。やはり彼女に恋する青年で近所に住むミゲルだ。ミゲルはエストレリータと握手をして電撃が走り、以来彼女に憧れ、いつも窓辺に立って彼女に歌を贈った。

テテも負けてはいられない。今度は彼女にカーネーションを贈ろうとした。でも夫のいる彼女は、青年ミゲルと、
✓の恋の三角関係のなかに悩み、やがて旅へと発った。
テテには、どうして彼女がいなくなったのかわからない。テテは、またオッパイのことを思い焦がれ月に願いをかける。

子供の頃の私はといえば主人公のテテとは違って実に現実的で、今から考えるとちっともかわいげのない子供だった。三人兄弟の真ん中に生まれてきた私は、いつも「私はいらない子なんだ」と思っていた。姉は初めての子供だし弟は長男でしかも跡取り息子。じゃあ私は何なんだらう? と考えると、どうも「いらぬ子」としか考えられなかった。もさうこの感覚からして可愛くない。
私が自分の存在を家族に認めてもらうためにしたことといえば、一番を得ること。だった。勉強はもちろん運動も、とにかく人より良い成績を得なければならなかった。「みんなの期待は絶対に裏切ってはいけない。期待以上のことをしてみんなに注目してもらう」というのが小さな頃の私のポリシーだったように思う。そしていつのまにか甘え方を忘れ、甘えることが出来ない子供になっていった。いつも良い子を気負っていた私に甘えることは許されなかった。それに比べるとテテはなんとも良い意味で子供らしくて本当に。おっぱい。欲しさにずつと年上のエストレリータに恋までしてしまうなんて……。
私も今では小さな頃に比べるとだいぶ成長(う)し、少しは人に甘えることも出来るようになってきたし、期待されても気負らなくなってきた。現実逃避と言われそうだが、年を取ることにテテに近づいていっているようだが、それが何だかうれしい。